

平成27年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 1

主要事業名	学校図書館の整備					作成日	H28.6.28
						担当課名	鹿嶋っ子育成課
事業の性質	法定受託事務	自治事務(義務)	○	自治事務(任意)	市民サービス	管理経費	
					建設事業	その他	
事業期間	単年度	○	年度繰返し	期間限定	年度から	年度まで	

1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ			②第三次鹿嶋市総合計画後期基本計画における位置づけ		
重点目標	1	豊かな心と生きる力の育成	基本目標	4	人が輝くかしま
体系項目	(2)	生きる力の育成	基本政策	7	学び楽しむまち
個別施策	③	読書活動の充実	基本施策	2	学校教育の充実

根拠法令等	子どもの読書活動の推進に関する法律，学校図書館法
-------	--------------------------

2 事業概要（Plan）

事務事業の概要・背景	平成19年度の波野小学校を皮切りに学校図書館の環境整備（改修工事等や図書情報のデータベース化など）及び司書の配置を順次行い，平成27年度時点で，小学校は全12校（平成24年度），中学校は5校中3校（平成25・26年度）が整備及び司書配置（兼務も含む）がされている。 ※市内小中学校15校（鹿島中・大野中を除く）に10名の図書館司書（嘱託職員）を配置
------------	---

目的（事業の目指すところ）	市内全小中学校で学校図書館を開館し，児童生徒の自主的な学習活動を支援するとともに，積極的な読書活動を充実させることにより，情報収集及び活用する能力を高め，豊かな感性や表現力を身につけることにつなげる。
---------------	--

目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館の環境整備 蔵書図書の充実 中央図書館との連携
------------	--

国・県・他自治体の動向，又は市民，その他の意見等	平成19年度の「新学校図書館図書整備5カ年計画」が平成23年度で終了し，平成24年度から今までの「学校図書館図書整備5カ年計画」の内容（毎年200億円の措置）に加え，学校図書館への新聞配置として毎年15億円，学校司書の配置として毎年150億円が地方交付税として措置されることとなった。
--------------------------	--

3 数値目標と実績（Do）

数値目標	目標内容	単位	27年度 (実績)	28年度 (予定・見込)	29年度 (予定・見込)	30年度 (予定・見込)	31年度 (予定・見込)
		学校図書館の環境整備	校	0 ²	(17/17)	0	0
	学校図書館司書の配置	人	10	11	13	13	13

全体計画		27年度 (決算額：千円)	28年度 (予算額：千円)	29年度 (計画額：千円)	30年度 (計画額：千円)	31年度 (計画額：千円)
投入コスト	報酬・共済費等	21,428	22,391	23,679	23,679	23,679
	需用費（消耗，印刷・修繕）	688	3,053	799	799	799
	役員費	0	108	108	108	108
	委託料（資料整備・人材派遣）	1,775	2,952	0	0	0
	使用料及び賃借料（電算借上）	10,922	9,975	2,270	0	0
	工事費	0	2,592	0	0	0
	備品（管理・施設用備品）	214	8,251	300	300	300
	備品（図書：一括，リクエスト）	13,029	13,137	13,137	13,137	13,137
合計		48,056	62,459	40,293	38,023	38,023
財源内訳	国県支出金					
	地方債					
	その他(参加者負担金)					
	一般財源	48,056	62,459	40,293	38,023	38,023
従事職員数	正規職員（フルタイム勤務者）	1	1	1	1	1
	その他職員（再任用（短），嘱託職員等）	10	10	11	12	12

3 具体的施策評価 (Check) 主要事業名:学校図書館の整備

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A:予定を上回る B:概ね予定通り C:予定を大きく下回る

具体的施策名	達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定		事業実施に直接関連する指標 に係る評価 ※何を行ったか	成果に関する指標に係る評価 ※どれだけの成果が上がったか	執行工夫・日常業務改善 の取組に係る評価	個別事業実績評価
	事業実施に直接関連する指標	成果に関する指標				
①市内15校の小中学校 図書館の運営 【比率: 50%】	児童生徒の自主的な学習活動の支援と読書活動を充実させるため、図書館司書同士の連携を図り、円滑な運営を行う。 ・学校図書館司書定例会議の開催 ・各校での学校図書館主催イベントの開催	・前年度比での児童生徒一人あたりの貸出冊数の増減	・学校図書館司書定例会議:3回実施 ・各校での学校図書館主催イベント:2~3回/年 ※イベントの実施例 ・読書ビンゴ:指定の本9冊を読み、ビンゴを完成させる。 ・図書館で運だめし:貸出一覧にランダムで「吉」「大吉」が出るようにし、当たった人にはささやかな「福」をプレゼント。	・一人あたりの貸出冊数の増加 (小学校)H26:43.5 →H27:47.7冊 (中学校)H26:2.9冊 →H27:3.8冊	学校図書館司書同士の連携を密にし、課題やその解決事例などの情報交換を行いながら各校とも円滑な運営が図られた。	個別事業実績評価点: 40 [課題] ・学校間で貸出冊数に差がある。 ・小学校と比較し、中学校での貸出冊数が低いいため、より利用しやすい環境づくりが必要。
②学校図書館司書の配置 とその活用 【比率: 50%】	学校図書館司書の配置校数:15 学校図書館司書の人数:10	学校図書館司書の配置による児童生徒の学習活動の支援、授業との連携	学校図書館司書の配置校数:15 学校図書館司書の人数:10	学校からの報告により、学校図書館司書の配置によって、図書館司書と教諭の連携が生まれ、効果的な学習活動の支援を行うことができたことを確認した。	学校及び学校図書館司書の要望等を把握し、適切な司書の配置を行うことができた。	個別事業実績評価点: 33 [課題] ・学校図書館司書の増員(1校1人を目標)し、より良い学校図書館運営に努めなければならない。 ・学校図書館司書の配置の具体的な効果の把握ができていないこと。
【比率: %】			評価:	評価:	評価:	個別事業実績評価点: [課題]
【比率: %】			評価:	評価:	評価:	個別事業実績評価点: [課題]

4 総合評価結果に基づく対応 (Action)

総合評価 方法	具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.65,C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。		合計 点数	72.0	A:合計点数が80点超 B:合計点数が50点超80点以下 C:合計点数が50点以下	総合評価結果	B
実績	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 全小学校の学校図書館整備及び図書館司書(兼務含む)の配置が平成24年度に完了し、平成25年度から高松中学校を皮切りに平成26年度は鹿野中学校及び平井中学校の整備が完了した。残り2校については、28年度に整備を行う。 整備面での充実とあわせて学校図書館司書等の活動により円滑な運営が図られ、読書の習慣化や情報収集及びそれらを活用する能力をの育成、豊かな感性や表現力を身につけることにつながってきているため、今後も購入図書の実施や利用しやすい学校図書館づくりに努めていきたい。						
充実、現状維持、 見直し、休止・廃止	充実	理由	残りの中学校2校の早期整備及び司書の配置を図り、市内全小中学校での読書の定着を図っていきたい。				
課題	継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 ・学校図書館を円滑に運営するためには、1校1人の司書の配置が望ましいため、今後の施設整備とあわせて学校図書館司書の増員が必要。 ・学校図書館司書配置の具体的な効果が把握できていないこと。						
改善策	課題に対する改善策について、期限や具体的な数値などを記入してください。 ・新年度予算編成時において、学校図書館司書の増員の要望を行う。 ・学校図書館司書の配置の効果を具体的に把握するための調査の実施。						

平成27年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 2

主要事業名	フロンティア・アドベンチャー事業					作成日	H28.6.28
						担当課名	社会教育課
事業の性質	法定受託事務	自治事務(義務)	自治事務(任意)	○	市民サービス	管理経費	
					建設事業	その他	
事業期間	単年度	○ 年度繰返し	期間限定	年度から 年度まで			

1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ			②第三次鹿嶋市総合計画後期基本計画における位置づけ		
重点目標	1	豊かな心と生きる力の育成	基本目標	4	人が輝くかしま
体系項目	(2)	生きる力の育成	基本政策	7	学び楽しむまち
個別施策	④	体験学習の充実	基本施策	4	青少年の健全育成
根拠法令等	—				

2 事業概要（Plan）

事務事業の概要・背景	フロンティア・アドベンチャー事業は、文科省が青少年の心の豊かさやたくましさなどを育むことを目的として、昭和63年から開始した事業である。当市でも、平成3年度から青少年の健全育成と自然の中での原生活体験を通し、自立心・忍耐力・協調性・生きる力などを育むことをことをねらいとして、25年間継続して実施している事業である。
目的（事業の目指すところ）	フロンティア・アドベンチャー事業は、自然の中で、1泊1日の長期集団宿泊体験の機会を提供し、子ども達が様々な体験活動を通して、人間関係やホームシック等、多くの困難を乗り越え、生きる力(自立性・協調性・課題発見能力・課題解決能力など)を身につけ、成長できることを目的とする。
目的達成のための手順	<ul style="list-style-type: none"> ・学校との共催事業として実施 ・企画運営会議、実行委員会、推進委員会の実施 ・推進委員代表(4人)と事務局による現地視察と体験プログラムの検討 ・リーダー、サブリーダー、看護師合同研修会とサブリーダー研修会の実施 ・保護者説明会の実施
国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	茨城県でも教育の日・教育月間のテーマとして、「子どもの自主性、自立性の育成」を重点テーマとし、自然体験活動の奨励に社会全体で取り組むことが提言された。当市のフロンティア・アドベンチャー事業がこのテーマにマッチした事業と認められ、「教育いばらき」に活動の様子が掲載されるとともに、11月に鹿島小学校を会場にして、県教育長をはじめ4人の県教育委員を迎えて教育懇談会が実施され賞賛を得た。

3 数値目標と実績（Do）

数値目標	目標内容	単位	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
			(実績)	(予定・見込)	(予定・見込)	(予定・見込)	(予定・見込)
数値目標	応募人数（募集人数70人）	人	6年生56人 5年生14人	6年生52人 5年生18人	6年生60人 5年生10人	6年生70人 5年生0人	6年生70人 5年生0人
	事業全体の満足度	%	82.1	80.0	80.0	80.0	80.0

投入コスト	全体計画		27年度	28年度	29年度	30年度	30年度
			(決算額：千円)	(予算額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)
事業経費	事業委託（実行委員会へ）		2,500	2,600	2,600	2,600	2,600
			2,100	2,100	2,100	2,100	2,100
	合計		4,600	4,700	4,700	4,700	4,700
財源内訳	国県支出金						
	地方債						
	その他(参加者負担金)		2,100	2,100	2,100	2,100	2,100
	一般財源		2,500	2,600	2,600	2,600	2,600
従事職員数	正規職員（フルタイム勤務者）		3	3	3	3	3
	その他職員（再任用(短), 嘱託職員等)		1	1	1	1	1

3 具体的施策評価 (Check) 主要事業名: フロントニア・アドベンチャー事業

「事業実施に直接関連する指標」、「成果に関する指標」、「執行工夫・日常業務改善の取組」は、以下の3段階評価を行う。A: 予定を上回る B: 概ね予定通り C: 予定を大きく下回る

具体的施策名	達成目標 ※指標別に具体的目標(値)を設定		事業実施に直接関連する指標に係る評価 ※何を行ったか	成果に関する指標に係る評価 ※どれだけの成果が上がったか	執行工夫・日常業務改善の取組に係る評価	個別事業実績評価
	事業実施に直接関連する指標	成果に関する指標				
①鹿嶋市フロントニア・アドベンチャー推進委員会の実施 【比率: 10%】	推進委員会を組織し、事務局と学校との連携を図るとともに事業の円滑な実施を目指す。	小学校の教職員の中から推進委員を選出する。 ・事業プログラムの検討 ・班編制	推進委員会の開催 ・第1回(6/10)事業の概要説明 ・第2回(6/17)事業プログラムの検討 ・第3回(6/24)参加児童、指導者の班編制	市内11校から児童の参加があったが、推進委員は6つの学校からの選出になった。 ※推進委員11人	午後6時から行ったが、ほぼ100%の出席率であった。	個別事業実績評価点: 8.6 [課題] 児童の参加する全学校から推進委員を選出する必要がある。
②鹿嶋市フロントニア・アドベンチャーサプリーダー(高校生)研修会の実施 【比率: 10%】	サプリーダー(高校生)を対象とした研修会を実施し、サプリーダーとしての心構えや事業の周知を図る。	・7月に2回のサプリーダー研修会を実施する。	サプリーダー研修会の実施 ・第1回(フロントニア・アドベンチャー事業の説明, サプリーダーの役割) ・第2回(火おこし体験, ナタなど道具の使い方, 歌や朝の体操の練習)	2回実施したことにより、サプリーダー同士のつながりも深められた。※28人参加	土曜日の実施により、全員のサプリーダーの参加が得られた。	個別事業実績評価点: 10 [課題] 鹿嶋市以外からの生徒の参加もありフロントニア・アドベンチャー事業の周知やサプリーダー同士の連携の上でも研修会は必要である。
③鹿嶋市フロントニア・アドベンチャー事業 【比率: 80%】	・小学校5～6年生を対象に、10泊11日の長期集団宿泊体験を実施。 期間: 7月28日～8月7日(10泊11日) 募集人数: 70人 場所: 福島県 那須甲子少年自然の家ほか	実施後に保護者アンケートを実施し、事業全体の満足度80%以上を目指す。	期間: 7月28日～8月7日(10泊11日) 応募: 93人 内訳: 6年生61人, 5年生32人 参加: 70人 内訳: 6年生56人, 5年生32人 ・現地視察(1回) ・企画運営会議 ・実行委員会 ・合同研修会 ・サプリーダー研修会 ・保護者説明会	事業実施後に保護者を対象にアンケートを実施し、56人から回答を得た。 ・参加前に比べ子どもの生活などに変化が見られたかについて、83.9%が「変化があった」と回答 ・事業全体に対する満足度は、82.1%が「満足している」と回答 ・事業の今後の継続については、100%が「継続してほしい」と回答	教育委員会と学校の共催事業として実施し、教職員の参加が得られやすいように改善を図った。結果として、児童の参加したほとんどの学校から教職員の支援を得ることができた。	個別事業実績評価点: 80 [課題] 児童の事業への参加希望者は、93人であったが、参加を希望しなかった児童・保護者から参加希望をしなかった理由などを今後は、調査する必要があるのではないか。

4 総合評価結果に基づく対応 (Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に、事業実施に直接関連する指標(3割)・成果に関する指標(4割)・執行工夫・日常業務改善の取組(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0, B=0.65, C=0.4)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA～Cの区分により総合評価とする。		合計点数	98.6	A: 合計点数が80点超 B: 合計点数が50点超80点以下 C: 合計点数が50点以下	総合評価結果	A
実績	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 国の調査では、自然体験やお手伝い、読書が多い子どもほど、生活スキル(礼儀、マナー、家事、健康管理等)が高く、生活スキルが高いほど学校生活が充実し、自立の意識(進路、職業、結婚など)も高いという結果が出ている。また、子ども達の直接体験が不足している現状にあり、このような課題解決のためにも、フロントニア・アドベンチャー事業は、有効なものであると考える。						
充実、現状維持、見直し、休止・廃止	現状維持	理由	事業を拡大してはどうかという意見もあるが、施設の規模から児童70人の参加が適正であると考え。				
課題	継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 フロントニア・アドベンチャー事業が教育委員会と学校の共催になったことから、事業の必要性に対する共通認識と、児童が参加する全校の教職員が協力する体制がづくりが必要である。						
改善策	課題に対する改善策について、期限や具体的な数値などを記入してください。 児童の参加する学校から必ず推進委員(原則2人)を選出し、推進委員会を組織する。						